



# スポ推よこすか

平成 28 年 3 月 22 日 発行

発行責任者 横須賀市スポーツ推進委員協議会会長 武 雅兄

## 全国スポーツ推進委員研究協議会

2020年 東京オリンピック・パラリンピックへの気運が高まる中、平成27年11月12日(木)～13日(金)に第56回全国スポーツ推進委員研究協議会が愛媛県武道館他で「未来につなげよう! スポーツ文化」をテーマに開催されました。

シンポジウムでは、テーマに「オリンピックが地域にもたらすレガシー」～次世代につなぐ地域スポーツを目指して～をサブタイトルに、4人のシンポジストから発表されました。



表彰式では、横須賀市のスポーツ推進委員OBの「磯部忠」氏が文部科学大臣表彰を受賞されました。

2日目は「スポーツを通じた健康寿命社会の実現」をテーマに～地域住民のスポーツへの関心を引き出す工夫～をサブタイトルにした、第2分科会に参加しました。2人のスポーツ推進委員と行政側職員1人から実践発表があり、コーディネーターからは、地域の特色はさまざまであり、地域課題や住民ニーズに対応するための「コーディネート力」がスポーツ推進委員に求められ、その役割にやりがいと責任をもって取り組んでいくことが「健康長寿社会の実現」につながると、結論付けされました



初日、元サッカー日本代表監督の岡田武史氏による講演では「スポーツと地方創生」をテーマに自らがオーナーに就任している、サッカーの四国リーグのFC今治において選手の育成改革に取り組んでいる体験談が、報告されました。

記事 副会長 鈴木 貞男 (大楠)  
写真 副会長 石川 輝雄 (森崎)

## 広報交流会

平成27年11月22日(日)に藤沢市において、大和市・藤沢市・横須賀市の三市広報部長・副部長が市の各広報誌・資料を持ち寄り、情報交換会が行われました。この情報交換会は、毎年開催されている三市交流会をきっかけに実施されました。

大和市では、年に2回の広報誌を発行しているのですが、昨年からはカラー版で、内容としては、タイトルがあり、写真を中心にして伝えているとのことでした。そして、ニュースポーツコーナーとして一面を使い、誰にでも分かりやすいように紹介されていることも、とても良く感じました。

藤沢市では、広報部員3名で、ほぼ部長1人で広報誌を作成しているそうです。そのためには、スポーツ推進委員の協力があってからこそ・・・と！ 広報誌は、年1回発行し、各行事の後はブログにて、発信し皆に伝えているそうです。

どちらの市も工夫が多く、学ぶことが沢山ありました。横須賀市も、広報部全員で協力し合い皆様の協力のもと、内容のある広報誌の編集を目指したいと思いました。



情報交換会の後は、懇親会を行い、有意義な時間を過ごしました。

記事 広報部 部長 鈴木 幸子 (汐入)

写真 広報部 副部長 新堀 邦明 (富士見)

## 県スポーツ推進委員研究会

11月23日(祝)に小田原アリーナにて開催され、県下のスポーツ推進委員総勢425名(横須賀6名)が参加しました。

趣旨は、スポーツ推進委員の指導力等の資質向上及

び各地域相互の情報交換を図り、地域におけるスポーツ振興の発展に寄与するため、県内各市町村からスポーツ推進委員が一堂に集まり、各種生涯スポーツ種目の指導法等の研修を行いました。今回は、ファミリーバドミントンとドッチビーでした。



ファミリーバドミントンの講師は、箱根町・湯河原町のスポーツ推進委員協議会が担当しました。ドッチビーの講師は、研修部員が担当しました。

参加者を8~9名の構成で48のチームに分け、3クールの各コート別のタイムキーパー制で行われました。小田原アリーナは、バドミントンコートなら16面も取れるぐらいの広さでした。



研修のレイアウトは、ファミリーバドミントンコート8面・ドッチビーコート2面で行われました。

ファミリーバドミントンは、バドミントンコートを使って、「前」1人と「後」2人の計3人のプレーヤーが、ラケットでシャトル(先端がスポンジ)を打ち合い、2回以内で相手コートに返すスポーツです。ただし、シャトルに触れるのは1人1回です。得点は1セット15点で、3セットのうち2セットを先にとったチームが「勝ち」となります。今回は、体験ということで、変則で行われました。



ドッチビーは、ソフトディスクを使用して行うドッジボール形式のゲームです。相手チームに当てられたプレーヤーは外野へ移動し、相手チームに当てた外野のプレーヤーは内野へ移動します。決められた時間内に、より多くのプレーヤーが内野に残っていたチームの勝ちとなります。こちらもファミリーバドミントンと同様に変則ルールで行われました。

プレー間では、各市町の情報交換がなされていて、有意義な研修になったと思います。

記事・写真 副会長 石川 輝雄 (森崎)

## 第70回三浦半島県下駅伝競走大会

2016年が明けた早々の1月17日(日)、三浦半島路を颯爽とランナーが駆け抜ける「三浦半島県下駅伝競走大会」が第70回を迎え、開催されました。

横須賀市総合体育会館～横須賀総合高等学校陸上競技場まで全長37キロを5区間で競い合う、まさにチームワークが要求される競技です。

私たちスポーツ推進委員の約半数の160名の委員が協力する一大イベントです。箱根駅伝の余韻が残る中、天候も朝方は穏やかだったこともあり、今年は、沿道に応援に駆けつける方が例年より多くありました。その後、日が陰るとともに寒くなり、頬を真っ赤にしながらいざ走り出す走り手を見守りました。市町村の部9チーム、高等学校の部11チームが参加しました。



結果は、市町村対抗の部では、横須賀市が2区で5位と出遅れましたが、徐々に追いつきました。6連覇を目指し練習を重ねた成果が現れ、最終区で逆転し優勝しました。高等学校の部では、鎌倉学園が3連覇しました。記録的には、区間新や大会新が多く、特に高校生の頑張りが顕著な大会でした。

今後も沿道の応援や大会運営に協力し、盛り上げて行きたいイベントだと思います。

記事 副会長 林 但(富士見)

写真 事業部 部長 内村 健(野比)

広報部 部長 鈴木 幸子(汐入)

## スポーツ推進委員新年懇親会

1月22日(金)に恒例のスポーツ推進委員新年懇親会を、ホテルハーバー横須賀にて開催しました。

吉田雄人市長・青木克明教育長・教育委員会スポーツ課職員、そして、中村栄治顧問・山田昭子顧問をお招きし、32名のスポーツ推進委員が参加しました。



武会長の挨拶に始まり、中村顧問の乾杯で、早速歓談に入りました。吉田市長は、途中からの参加で、ご挨拶をいただきました。



宴もたけなわの終盤には、ビンゴ大会で、今回も一番盛り上がりました。今年は多くの方に景品が当たるように配慮されていました。



司会の総務部の金森由香里(追浜)さん、お疲れ様でした。

記事・写真 広報部 副部長 新堀 邦明(富士見)

写真 広報部部長 鈴木 幸子(汐入)

## 県スポーツ推進委員大会(鎌倉市)

2月7日(日)、大船の鎌倉芸術館にて「平成27年度神奈川県スポーツ推進委員大会」が開催され、横須賀市からは事務局2名、スポーツ推進委員42名の計44名が参加しました、県全域としては、総勢1,141名の参加でした。



開会式に先立ち行われたアトラクションは、鎌倉市郷土芸能保存協会に加盟する「小袋谷囃子会」による①おかめ踊り ねんねこ と②狂い獅子の2演目でした。黒ぼい色の着物姿のおかめ(お面)が子どもに見立てた赤い獅子がしらを背負って、舞台上手から現れ、ユーモラスな優しい動きで子供をあやし、慈しみ深く優しさに満ちたおかめの所作が続き、会場内はほんわかと暖かい、なんとも心地よい空気に包まれました。



次に一人で舞う狂い獅子が演じられました。真っ赤な顔、大きな目、そしてむき出しの歯をカクカクと鳴らして威嚇、白いたてがみを振り回す、かと思えばしゃがんで頭を小さく揺らし足を舐める。なんと演者はひょっとこがひょこっと現れ、無駄の無い動きで荒ぶる獅子、静寂なる獅子を見事に演じ分けていました。

続いて、開会式のあと表彰式となりました。功労者表彰は、総員105名で、横須賀市は13名であり、感謝状は同4名(横須賀市は該当者なし)でした。

結びの基調講演は、湯浅健二氏でした。

湯浅氏は、日本初のドイツでのプロサッカー選手となった奥寺氏のドイツ語教師を行い、帰国後は全盛時代の読売サッカークラブ・ヴェルディにおいて、コーチとして6年間にわたり活躍されました。

湯浅氏は、神奈川県立湘南高等学校・武蔵工業大学(現 東京都市大学/機械工学科)卒業後、190cm近くある長身を生かすために、高校生からやっていたサッカーでプロ選手となるべく希望を抱いて1976年ドイツのケルン国立体育大学およびケルン総合大学に留学しました。

プロテストを受けましたが、ドイツの選手に比べて足が遅いことを自覚し、選手になることを諦めました。そこでプロサッカーコーチになるべく勉強し、ドイツサッカー協会公認サッカー指導者資格B級ライセンスを取得し、2年後A級ライセンスを取得、更に2年後の1981年3月にプロサッカーコーチの国家試験とドイツサッカー協会公認試験に合格しました。演題は「人類史上最高の異文化接点パワーを秘めたサッカー=21世紀(日本)社会のイメージリーダー」でした。湯浅氏の言わんとするところは、世界の異文化、例えば日本とドイツ、ブラジルでは、それぞれのサッカー観があり、それぞれの選手の気質にも違いがある。そこで、日本人は、日本人の良さを残しながらも、ドイツ人のように監督に否定されても「俺にはできる」と主張できる強い気持ち、プロとしては大事である。ということだと感じました。また、サッカー(話題)は、全世界的な共通話題となるコミュニケーションツールであるとのことでした。

記事 広報部 臼井 喜八郎(森崎)

写真 広報部 副部長 新堀 邦明(富士見)



### 事務局からのお知らせ

参加確認(募集後に参加者に配布していたため)は配置・役割等を伝達する必要がある事業以外は、配布しないこととします。研修会・講習会は、原則として配布しませんので、ご注意願います。

## 編集後記

一年間、たくさんの行事・研修・交流などありましたが、無事、皆さまにお伝えできたかと思えます。来年度も広報部一同皆さまの協力を得て、頑張ってみます。ありがとうございました。

広報部長 鈴木 幸子(汐入)